

平成30年度全国学力学習状況調査の結果を受けて

【師崎中学校の主な傾向とその対策】

(1) 各教科の結果

- 国語においては、全体として県・全国平均並みである。
 - ・国語Aでは「話す・聞く能力」が県・全国平均を大きく上回っている。
 - ・国語Bでは「書く能力」「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」が県・全国平均を下回っている。
- 数学においては、全体として県・全国平均を上回っている。
 - ・数学Aでは全ての項目で県・全国平均を上回っている。
 - ・数学Bでは「関数」「資料の活用」が県・全国平均を上回っているが、「数と式」「図形」が県・全国平均を下回っている。
- 理科においては、全体として県・全国平均を上回っている。
 - ・「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識理解」が県・全国平均を上回っている。

(2) 質問紙の結果

〈好ましい傾向〉

- ・学校の規則を守って生活している。
- ・家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- ・地域の行事に積極的に参加している。
- ・地域社会のボランティアに参加している。
- ・地域の大人（学校・塾・習い事以外）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。
- ・自然の中で遊んだことや自然観察をした経験が豊富である。

〈改善が望まれる傾向〉

- ・自分にはよいところがなく、周りから認められていないと感じる生徒が多い。
- ・家で、自分で計画を立てて勉強している生徒の割合が、県・全国の平均と比べ、15%程度低い。
- ・将来の夢や目標をもっている生徒が少ない。



(3) 今後の対応

- ・国語科の学習については、各教科の授業やS T等で対話活動・トークタイムを行ってきた成果として、「話す・聞く能力」を大きく伸ばすことができた。しかし、昨年度、良好だった「書く能力」は減少傾向が見られた。「話す・聞く能力」を生かしながら、話した内容を記述する、それを声に出して読む、友達の記述を読み、内容について話し合うなど、全体としてバランスの取れた指導を心がける。
- ・数学科の学習については、一定の成果が見られるため、今後も TT 指導での習熟度別コース学習を継続し、さらなる充実を図る。
- ・学校の規則やルールを守り、まじめに生活できる生徒が多い。一方で、認められたり、褒められたりすることで自信をもち、主体的に学習したり、将来の進路に向けて力強く生きる態度は弱い。一人一人の良いところを褒めて育てる教育をさらに充実させていく。
- ・今後も「学力向上」「家庭・地域との連携」「小中連携」を具体的に行い、9年間、一貫した指導を切れ目なく、継続してできるような学校教育を進めていく。

